

定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

令和6年5月28日

境港市定例教育委員会（令和6年5月28日委員会会議録）

招集年月日 令和6年5月28日 15時30分

招集場所 みなとテラスミーティングルーム

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 山本 淳一

委 員（職務代理者） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

教育長から説明のため出席を求められた者

教育総務課長 角 純 也

生涯学習課長 北 野 瑞 弘

教育総務課主査 柳 楽 力 人

教育総務課長補佐兼指導係長 築 谷 健 作

教育総務課長補佐兼管理係長 角 本 豪

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課長補佐兼管理係長 角 本 豪

提出議案 議案第22号 境港市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について

協議事項 教育委員会の点検・評価について

報告事項 5月の行事報告、6月の行事予定
境港市民図書館の利用状況について

【１．開会】

山本教育長

皆様お揃いのようなのでただいまから５月の定例教育委員会を始めます。

【２．前回議事録承認】

【３．議事】

山本教育長

それでは、まず議案第２２号境港市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について事務局より説明をお願いします。

北野課長

議案第２２号境港市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱についてです。委員名簿をご覧ください。現在の委員の任期が５月３１日までとなっていることから、新たに２年間の任期で、名簿に記載している１７人を６月１日付で委嘱したいと考えております。網掛けにしております６番から１５番までの１０人が新任の方です。境港市青少年育成センター条例第５条で、委員の定数は１８人以内となっておりますが、現在の１７人の委員で青少年育成センターの業務、青少年相談や自立支援、街頭指導などに関する基本計画を協議するために、年１回協議をいただいております。説明は以上です。

山本教育長

ただいまの説明についてご質問等ありますでしょうか。

大部委員

委員名簿１０番の方について、新任の網掛けになっていますが、就任日が令和５年６月１日からとなっています。どちらが正しいのでしょうか。

北野課長

すみません。就任日が間違いです。就任日は最初に就任した日を記載していますので、正しくは令和６年６月１日からです。

大部委員

網掛けは正しくて、就任日が令和６年ということですね。

山本教育長

それでは、就任日が令和６年６月１日ということで、委員名簿１０番の方の訂正をお願いします。

十河委員

委員名簿の下に記載されている補足情報に、任期が２年であるのに、一年交代と書いてありますが、なぜでしょうか。

北野課長 一年交代の方は、あて職の方です。委員の任期は2年と条例で決まっていますが、途中で元の職の交代があれば、委員も交代します。

山本教育長 そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。ご承認いただけますでしょうか（異議なし）。議案第22号については承認といたします。議案については以上となります。それでは協議事項に入ります。教育委員会の点検・評価についてです。点検・評価報告書は事前に配布させていただいておりますので、何かお気づきの点等ございましたらお願いします。

渡邊委員 小・中学校就学援助費について。所得課税証明書の添付を原則廃止としたのは、教育委員会で所得課税情報が見られるようになったということでしょうか。また、原則廃止としたことについて保護者さんからの反応は何かありましたでしょうか。

角課長 就学援助を受ける世帯にとって、所得課税証明書の発行手数料300円は負担となるでしょうし、提出がないケースもあったため、今年度から、保護者さんから同意書をいただいて、こちらの方で税務課で調査するというルールにさせていただいております。

渡邊委員 手数料がかからないし、保護者さんからはむしろ喜ばれているのではないのでしょうか。

角課長 そうだといいです。

渡邊委員 申請方法は今まで通りですね。

角課長 はい。今まで通りです。

山本教育長 そのほかいかがでしょうか。

十河委員 英語教育推進事業について。境港市は報告書に書いてある通り手厚いALTの配置をさせていただいており、非常に嬉しく思っています。英語教育実施状況調査の結果がこの間新聞紙面等

でも発表されまして、全国の中学３年生のうち英検３級程度の英語力をもつ割合がどの程度かということが公表されていきました。鳥取県は５１％と報道されていましたが、境港市の状況がもしわかればお教えいただきたいです。

築谷補佐

昨年度、鳥取県の予算で英検ＩＢＡを当時の中学３年生が受験し、４技能の読む・書く・聞く・話す、すべての技能をもとに結果が戻ってきました。境港市は、英語教育推進プランの目標値として英検３級相当５割以上を目指して頑張ってきているのですが、市内２４２名が受験し、英検３級相当が１０５名という結果で、パーセンテージは４３．３％となり、今一步届かずというところでした。また、学校別にみますと、一番得点率の高かった学校が４８．７％、一番厳しかったところが３８．５％でかなりのひらきがあり、一律に市内の結果と言いきらい技能に格差があったこともあり、しっかり英語教育を推進していきたいです。

渡邊委員

それに関連して、ＡＬＴの取り組みも今一生懸命されているというところで、ＡＬＴの先生たちの夏休みの動向を教えてください。

築谷補佐

ＡＬＴは２種類の任用先があります。ＡＬＴ６名のうち、３名はＪＥＴプログラムによるＡＬＴ、３名はインタラックという民間企業が派遣しているＡＬＴで、扱いがそれぞれ違います。ＪＥＴプログラムのＡＬＴについては、年間を通じて、１日７時間、週３５時間の勤務ですので、夏休み中も、比較的休みはとるのですが、そのままの勤務です。授業準備や、シンガポールへの同行、伊平屋の子どもたちとの交流など、断続的に様々な活用をしています。インタラックからのＡＬＴについては、契約上、長期休業中は勤務がないため、任用はありません。補足ですが、長期休業中に勤務がない分、給料が発生しない月となるので、非常に厳しい状況だと個人的には聞いておりまして、もう少し条件面がよくなるかなとは思っています。

渡邊委員

賃金が発生すると予算の関係もありなかなか難しいところもあると思いますが、幼稚園での活用ができるような方策があればよりいいのではと思い質問させていただきました。

山本教育長

小学校の1、2年生は外国語活動がないのですが、昨年の冬から、クリスマスのキャラバン隊をALTでつくって、楽しく遊びましようというようなものを企画してくれています。各小学校を回って、小さいころから英語に興味を持ってもらうようにということでスタートしています。

渡邊委員

低学年からの英語教育はすごく大事だと思います。特に小さい子は飛びついてくるので。ありがとうございます。

柳楽主査

一部民間の園の中にはALTが順番で回ってくるところも出てきました。

築谷補佐

補足ですが、先程、十河委員から英検3級相当の英語力を持つ割合についてのお話がありました。昨年度の中学3年生の割合が43.3%とお伝えしましたが、受験した時期が7月でした。我々の目標としては卒業時に5割というのがありますので、英語は使っていけばいくほどスキルもアップしていくと考えると、5割を達成していると言っても過言ではないのかなと思っています。

山本教育長

現在、シンガポールでの研修を復活させようと動いているのですが、円安と物価高の影響で、予定の人数を連れて行かれないかもしれないという事態になっています。入札もすべての業者に辞退されました。予定を後ろにずらして、泊まるホテルも集団で泊まれる簡易宿舎に切り替えるなど工夫して、何とか予定の人数を海外に連れて行けるように考えています。価格がすべて3割増しくらいになっています。現地スタッフも、日本から来る人が減っているため、どんどんやめていっているようで、ホームステイもできない可能性が出てきています。あと、ALTのボココ先生が同行する予定でしたでしょうか。

築谷補佐

はい。境小と上道小に今おられるボココ先生が同行します。

十河委員

心強いですね。

柳楽主査

実は現在、本当に担当が苦戦しております。教育長がおっし

やるように、価格が3割増し、もっと高くなっているかもしれません。今回、ホームステイに関しては難しくなりました。理由として、先程教育長もおっしゃられましたが、まず現地スタッフが、コロナ禍を経ておさまった中ではあるのですが、非常に減っていて、現地スタッフに業者がオーダーをかけてもなかなか返ってこないという状況です。また、国内でも相当コロナ禍に人員整理しているため、旅行プランを組むのにも人員不足で厳しいという状況です。そういったところでこちらが示した期間の中で入札の仕様を整えるというのが非常に難しくなっています。それで、ホームステイはやはり非常に難しいということでしたので、仕切り直して、財政課とも相談しながら入札しなおそうとしています。その中で、ホームステイをしない代わりに、しっかり英語を使えるようないろいろな仕掛けをしようと考えています。例えば、行った先々で聞き取り活動をするとか、日本語のスタッフがつく独自のツアーではなく、現地のツアーに参加して、ガイドもあえてつけてもらわないようにするなどの対応で動いています。ただし、いきなりそういった場に投げ込まれても難しいため、学習会の内容を変えて、ボココ先生にも来てもらいながら、聞き取り活動での問いかけ方の練習をしようと考えています。また、7月6日にダイヤモンド・プリンセス号が入港するのですが、そういった際によくクルーとの交流の募集があるため、管理組合などにも頼んで、子どもたちが説明を受けたり、船内を見学しながらクルーと話したりして疑似体験をできたらとも考えています。さらに、過去のALTにも協力してもらえと思うので、オンラインで会話することも考えています。あともうひとつ、朗報といいますか、シンガポール日本人学校の方にもアクセスしてしまして、向こうの校長先生から返答がありました。当日は生徒さんは夏季休業中ではないですが、施設等は案内していただけるとのことなので、向こうで現地の様子を聞くこともできます。あわよくば向こうの生徒さんとオンラインでつないで、現地の情報が得られないかと考えてもいます。現在そういったことを考えて、わくわくしながら企画をつくっています。そのような状況で再度仕切りなおして、何とか8月お盆明けに行きたいと考えています。

大部委員

関連してひとつ質問していいですか。全然把握しておらず申し訳ないのですが、シンガポールに子どもたちを連れて行く一

番の目的は何でしょうか。何を獲得させたいですか。例えば、別に英語が話せなくても、ショックを受けるだけでもよいと私は考えています。そもそも練習もしなくてよいのではとも思っていて、何か日常のものをもって、本当に行きたいと思う子が行ったらよいのではと思います。選考にはプレゼンテーションがあるということで、自分の力を試したいのか、外の世界を見たいのか、選ばれる人の性質はわかりませんが、ただその子に支援をしようと思ったら呼びかければサポートをしてくださる方がいらっしゃるかもしれません。熱がどこにあるのか、ただやらせているだけなのか。疑似体験だったらZOOMでもよいです。行く目的が、においのかぐとか熱風を浴びるとかなのか、何なのかで支援の仕方も変わってくるのではと思います。だから、小さい箱の中で考えずに、行く目的に熱があれば、いくらでも外部にも助けてもらって何かできるのではとすごく思います。

柳楽主査

目的の大きな部分は、まず外国に行ってみるということであるのが正直なところだと思います。食べ物一つとっても違うし、シンガポールはたくさんの人や文化が入ってきているので、まずそれを知るというのが大きな目標です。それにプラスして、コミュニケーション、ことばの力を育むということをしているので、境港市のインバウンドなどを利用して学び、現地で試してほしいと考えています。しかし、前市長の時からそうでしたが、一番は、まず外国に行ってみて感じてほしいです。外国に行ってみて感じることは非常に大きくて、空港を出た瞬間のあの空気の違いとか、いろいろなことを感じると思います。それは行かないとできないので、今回何とかして連れて行ってあげたいと考えています。

大部委員

大人が考えるとどうしても損得勘定が働いて、これだけのお金をかけるのならこれくらいの準備をしないといけないとか、こういう経験をさせてあげないといけないとか、そういう風な、お金をかけたものに見合ったものになってしまうと思います。じゃあその見合ったものとは何なのかと考えると、それはもしかしたらその子が帰ってきて10年後20年後に発揮することかもしれません。だから、熱意のある子を連れて行ってあげてほしいと思います。英語ができるできないではなく、

その思いがあるかどうかだと思います。海外なんて行こうと思ったら、親のすねをかじって行けばいいだけの話です。境港市として連れて行って、そこでしかできないことをやるというのが小さなまちのいいところだと思います。それにだったらお金を出してくださる人だっているし、だったら財政に掛け合ってお金を取ってくればいいだけの話になるし、と思います。だから、熱量は大事にしてあげてほしいと思います。伊平屋との交流でも、何をもって子どもたちに体験させているのかが大切です。日本にいても外国のことは経験しようと思ったらちょっとくらいのことは経験できると思うので、海外に行くからこそできることをさせてあげてほしいと思います。

築谷補佐

今言われたことについてですが、十河委員の娘さんもたまたま4年ほど前に研修に参加しています。子どもさんの感触がすべてではないかと思いますので、その時の熱量などを今振り返ってみられて、一言お願いできますでしょうか。

十河委員

運よく中学2年生の時に行かせていただいて、ホームステイもさせていただいたのですが、娘は日本の家庭でしか育っていないので、やはり本当に空港に降りた時から異文化で、すべてが違ったようです。ホームステイ先でもキッチンから勝手が違って、私も行く前から入れ知恵というか、こんな違いがあるようだと情報を詰め込んで送り出したりしながら体験させていただきました。やはりそれは彼女にとって何物にも代えがたい経験で、そのあとの英語学習についても、シンガポールに行かせていただいたということもあって熱がずっと入り続けています。当然その場で様々な経験をし、現地を感じ、ということはたくさんあったのですが、そのあともずっと一緒に行った子どもたちは横のつながりがあります。ずっとLINEやいろいろなことでつながっていて、いまだにやり取りをしているので、一緒に行けた友だちというのはすごく大きい財産だなと思っています。

渡邊委員

英語の力などもすごく大事だと思いますが、おそらく言われているのは、英語ができなくてもすごくチャレンジできる、熱量のある子どもたちがいるはずということだと思います。だから、選考時の試験枠に、最初からあきらめてしまわないような、

チャレンジしてみたいなものがあればと思います。帰ってきたら、やっぱり勉強しないと話にならないとなってしまうかもしれませんし、チャレンジしても成功体験にならずに失敗体験になるかもしれませんが、次に生かせるような体験ができるといいかなと思います。

十河委員

一緒に行かせていただいた子どもたちは9人いたのですが、現在大学1年生で、外国語大学に行っている子がやはり何人かいるので、これはその時のことが大きいのだろうと思います。

山本教育長

前市長は常々、子どもたちを海外に連れていくことについて、感性がみずみずしいときに、違った文化やにおいや食べ物に触れることで、その時の若さじゃないと感じないものがあると言っていました。だから最初は中国に行っていて、英語は全く目的の中にはありませんでした。中国に行って、現地の観光みたいなものでしたが、それでもやはり子どもたちは、失敗したり食べ物を受け付けなかったりした経験を覚えていますし、みんなシェアしています。やはり目的を英語だとか何だとかと、大人の勝手に変えていかないほうがいいですね。そして、熱量のある子どもたちを連れて行かれるようにしたいです。今回は5万円の食事代を家庭から出していただくのですが、このために生活保護家庭や準要保護家庭が行かれなくなるのはいけないので、修学旅行に準ずる扱いとしています。生活保護家庭は全額、準要保護家庭は半額、市が補助し、経済的な困難さがあっても行かれるように、手を挙げるのをやめることがないようにしたいと思っています。みんなに平等に開かれたチャンスを、熱量で勝負してほしいと思います。今のご意見を参考にさせていただきます。

角課長

すみません、準要保護家庭も全額補助します。

柳楽主査

修学旅行でも準要保護家庭も全額補助していましたので、負担がないようにみんなに間口を広げてほしいと、財政課にも確認しています。なんとか子どもたちが困らないように考えています。

十河委員

ありがとうございます。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

地域クラブ活動推進事業について。ハンドボール部、陸上競技部、サッカー部、軟式野球部、卓球部が現在地域クラブへ移行されていますが、地域クラブ側での困りごとがないかなど、現在の状況を教えていただきたいです。また、令和6年度以降、既に実施している5つのクラブ以外の部活動を段階的に地域クラブへ移行したいということなのですが、どのような部活で検討しておられるのか、もしわかれれば教えていただきたいです。

築谷補佐

まず現在の状況ですが、4年目に入りました。土日の活動からスタートしているのですが、例えばハンドボール部や軟式野球部は平日も活動されており、自分たちで運営して、子どもたちと直接つながって活動しようとされている部も出てきています。そのあたりの線引きといいますか、学校側と地域クラブとのすり合わせというのは、いい意味で少しずつできてきています。学校としても、どんどんやってほしい、子どもたちをしっかりとみてあげてほしいと考えています。クラブでやりたいという子はどんどん学校から離れて活動場所を追い求めているようなところがあります。ただ、立ち上げ予算がないため、練習場所や道具などすべてのことが学校と連携しないと成り立たず、募集から道具から基本は学校を通じてやっているというのが現状ですので、どうしても学校と連携していかないとなかなか難しいのかなと考えています。また、現在指導者が6名いらっしゃるのですが、実はかなり高齢化してまいりまして、毎年、今年是可以のかどうかと、正直難しい状況です。部員についても、例えばハンドボール部は今の3年生が卒業したら、というところがありまして、SDGsと言われていますが、指導者の確保も部員数についても、年々難しくなっており、続けたくても続けられないところが出てくるのではと非常に懸念しております。次に、今後の地域クラブへの移行についてです。地域クラブへの移行は、きわめて人数が足りなくて学校部活動の運営をしにくい部からせざるを得ない、廃部にするなら地域クラブを作るという発想で考えています。例えば、各学校70名ずついるようなソフトテニス部や、バトミントン部などを来年度から地域移行してしまうと非常に困るお子さんもかなり出てくるので、

なかなか丸投げできないというのもあります。人数や入部状況を見ながら、来年度の地域移行を検討する部を選んで、2学期以降に人材探しなどをしていくという流れになると思います。現在活動している地域クラブも状況によっては元の部活動に戻る可能性もありますし、部活動も地域クラブもなくなるという可能性もあります。幅広い選択肢を子どもたちに提示したいのですが、なかなかそれも実現できないかと思います。それから、報告書にも記載していますが、文化系の地域クラブとして、写真部の活動を行いました。教育長の方針に、子どもたちにあらゆる活動の場を提供するというのがありまして、中学校の文化系の部活動は、どうしても吹奏楽部と美術系の2つの選択肢しかない状況ですので、華道や茶道、写真など、いろいろな活動をさせたいという思いから、写真のクラブ活動も昨年度から始めました。これも軌道に乗れば子どもたちの活動の場として、例えば平日は野球しながら土日は文化系の地域クラブに行くなどのいろいろなパターンが考えられるなと思っています。昨年度の活動については、角本補佐と一緒に活動されていますので、レポートをお願いします。

角本補佐

昨年度は全中学校から募集し、一中から男の子2人、二中から女の子2人の計4人が参加しました。今どきの携帯電話やスマホのカメラ機能で簡単にパシャパシャ撮るようなイメージではなく、使い捨てカメラを使用し写真を撮ってみて、現像に出してどんな写真ができあがるか楽しみにするなど、普段経験できないことをさせてあげることができました。他にも植田正治写真美術館に行って写真を鑑賞したり、自分たちの作品を1月の読書まつりで飾ったり、いろいろな経験ができたと思います。全5回の活動で、子どもたちからも楽しかったという意見をもらいましたので、よかったなと思っています。

渡邊委員

文化系の地域クラブ活動についてですが、華道や茶道などは公民館講座など地域コミュニティにありますよね。そういったところが利用できないでしょうか。フラワーアレンジメントなどは材料費がかかるかと思うのですが、なんとか工夫して、あとは時間と場所をうまく使えば、毎週、もしかしたら週2、3回はできるような感じがします。文化系の部活動はすごく少ないですので、よろしくお願いします。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。それでは協議事項については以上となります。ここからの進行は事務局の方でお願いします。

【４．報告事項】

事務局

それでは、報告事項・行事予定について、教育総務課、生涯学習課からお願いします。

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

※柳楽主査より小・中学校参観日・PTA総会、第一中学校区・第三中学校区学校運営協議会、全国都市教育長協議会定期総会、県小学校教育研究会境港支部総会、中学校体育祭、市民運動会、小学校修学旅行、境港市伊平屋村教育交流事業説明会、とっとり学力・学習状況調査、小学校宿泊体験学習、通級担当者・就学支援担当者説明会、サマーブラスコンサート、中学校西部地区総合体育大会、教員採用試験、連合体育大会、国際理解推進学習説明会等について説明

北野課長より市民交流センター２年目点検、市民運動会（誠道地区）、ねんりんピック境港市実行委員会第２回総会、第７回ボッチャ大会、令和１５年国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備委員会第２回総会、ねんりんピック鳥取県実行委員会第３回総会、子ども工作教室、第５５回境港市美術展覧会等について説明

《図書館 利用状況等報告》

北野課長より公民館長会（移動図書館車の公民館訪問についてのお願い）について説明

北野課長

一点報告があります。先月の定例教育委員会の中で中田委員から、第一中学校のＣＳコーディネーターがまだ決まっていなかったがその後どうなったかというお問い合わせをいただきました。その際、私からは早くても６月になると申し上げましたが、６月も間に合いませんでした。現在いろいろあたっております、なんとか７月には配置できるように頑張っているところです。よろしく願いいたします。

事務局

ただいまの行事報告・行事予定等について質問等ありますでしょうか。

十河委員 今回の市展で新たに部門が創設されたと聞いておりますが、創設の背景やいきさつみたいなものを教えていただきたいです。なぜ創設されたのか、例えば絵画部門でもイラストっぽいものが増えてきたからなのか、そういった背景があれば教えていただきたいです。

北野課長 デザイン部門が新たに創設されました。担当からは、若い方がなかなか市展に参加できないという部分もあり、若い方はやはりコンピュータでデザインや絵を描かれる方がおられるので、そういった部分も取り入れたいということを知りました。

十河委員 ありがとうございます。

大部委員 審査が大変ですね。

事務局 そのほかいかがでしょうか。

大部委員 今審査のことを自分で言いながら、全く関係ないことすみませんがいいいでしょうか。市展を観に来られる方は増えていきますでしょうか。私も以前携わっていたのですが、観に来られる方はすごく少なかったです。今日、米子北高校でブラスバンドと幼稚園児のコラボレーションを観てきたので、ふと思ったのですが、幼稚園児に審査をさせてみたらどうでしょうか。講評をされる先生方も気を遣っておられるでしょうし、審査時に作者の名前は伏せているものの、もう作風で誰の作品か見当がついてしまうこともあるのではと思います。先ほどお話にあったように、子ども工作教室を市展連携企画でされるのであれば、1回くらいそんなのがあってもよいのではと思いました。若者の参加を増やしていかないといけないし、若い方たちが携われるように、小学生や幼稚園児からの得票数で選ばれる賞を設けるとか、中学生までが対象の部門を創設するとか、感性を磨くことの一環でやってみてはと思います。子どもたちは交流する機会も減少していつているでしょうし、作品の出品が同じ人ばかりになってしまうこともあると思います。そういうことも選択肢に入れてもいいのではとふと思いました。

北野課長 これまでに、市民会館や夢みなとタワーなどいろいろなとこ

ろで市展を開催してきたのですが、やはりみなとテラスで開催したことで、例えば市民図書館を利用しに来られて市展も、というようなかたちで、普段観に来られない方も多いうように思います。市展とは関係ないですが、読書まつりもみなとテラスで開催することによって、参加者が増えている状況があります。普段関心のない方でも来られる場合もあるので、そういった方をいかに市展を開催している2階に誘導するか、その工夫があれば皆さんに来ていただけたらと思います。

大部委員

おそらくみなとテラスが新しくできて、人の流れができたので、オープンからの3年5年はそういうことが起こるのだと思いますが、その人たち頼みではなくて、戦略的に人を引っ張ってくる必要があると思います。意識がある人は来るけれど来ない人はどうするのか、というところを考えていかないと、特徴がない施設やイベントになってしまうと思います。

北野課長

おっしゃる通りです。みなとテラスには令和5年度に、31,000人強来ています。ですので、結構な人数が来ているのかなと思っています。ただおっしゃられた通り、戦略を打たなければ、当然施設というのは利用者数が右肩下がりですので、この人数をどこまで下げないのかというのが、これからのみなとテラスの運営にかかわってきます。そこで、大部委員がおっしゃったように、施設側が新しい取り組み、来てもらえる工夫をしないといけません。図書館に人が来たり、近くの高校の生徒が来たりするだけでは、本当に右肩下がりです。みなとテラスは賑わいがある施設を目指しているので、今ご意見もいただいたので、指定管理者とも相談して、来ていただけるような工夫を考えていきたいです。

事務局

そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。
次回日程確認。

柳楽主査

今取り組んでいる新事業の、市民温水プールを使った水泳学習について、進捗状況を報告します。今年度は、外江小学校と第二中学校で試験的に行っています。5月22日に第1回として、外江小学校の6年生が10時50分から2枠使って水泳学習を行いました。学校教育のバスと境港市のバスの2台で送迎

しました。私も現場に行ってみてきました。出発の際はちょうど長休憩終わりの時で、低学年の児童が手を振って送り出してくれました。6年生の児童はとてもわくわくしていて、跳ねたりして喜びながら行きました。市民プールでは、その日は7コース全部使えるようにしていたのですが、1コース1コースが学校のプールより広いので、結局使ったのは3コースでした。それでも十分しっかりできていました。今回の指導者ですが、学校側からは2名で、体育担当の教員と、外江小学校は小中連携で中学から教員に来てもらっており、6年生の体育を担当している中学校の教員が行いました。またスイミングスクールのコーチにも指導補助という形で入っていただきました。スイミングスクールのコーチが水の中をずっと泳ぐ姿はやはり全く違って、子どもたちは本物に触れられて、指導もしていただけて、非常に有意義な時間を過ごしました。以上のようにスタートを切っています。ただし、バスやコーチの調整は非常に煩雑ではあります。その中でも、スイミングスクールにとっても学校にとっても一番負担のかからないやり方を模索しながら、現在ある程度確立できたと思います。今後は、第二中学校が7月からチャレンジしますし、外江小学校は次回5月31日に4年、5年、6年と、1日に3学年が使う予定です。この後も予定をどんどん入れて、確認しながらやっていきます。次年度に本当に小中全校でできるかというところも、現在いろいろなプランニングをして、一応計算上では、はまりそうです。しかしひとつだけ大きな課題がありまして、1学年を送迎するのにバスが同時に2台必要なのですが、計算上2か所同時にやらないとはまらないので、そうするとどうしてもバスが合計で4台必要になります。それが確実にまかなえればすべてのことがうまくいきます。バスが増えて、ドライバーも2名になったので、学校もバスを使った授業を組みだして、別のところにも波及効果が出てきているのを感じているところなので、戦略的にどんどん進めていきたいと考えています。以上、現状を報告させていただきました。

【5. 閉会】

山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。